



神様の目

センターだより227号では、「仏様の指」というお話を紹介しましたが、今回は「神様の目」というお話を紹介します。

ある小学校のでできごとです。ある日の放課後、校長先生が校長室からグラウンドを眺めていました。すると、サッカーボールがグラウンドのすみに落ちていました。

校長先生は、「昼休みに誰か遊んで片付けるのを忘れてしまったのだな。誰か気がついてなおしてくれないかな」と思って見ていると、5年生くらいの男の子が数人、ボールに近づいていきました。「おっ、気がついてなおしてくれるのかな」と思っていると、しばらくボールで遊んだ後、ポーンと蹴ってそのまま帰って行ってしまいました。「やれやれ、困ったものだなぁ」と思って見ていると、今度は2年生くらいの男の子が、一人、ボールに近づいて蹴り始めました。「あぁ、また遊び始めたな」と思って見ていたら、その男の子は、グラウンドのすみにある体育倉庫までボールをドリブルしながら近づいていき、最後はボールを倉庫にしまって帰っていきました。その2年生の男の子は自分のした良い行いを誰かが見ているとも思ってもいないし、まさか校長先生が校長室から見ていたとは思ってもいませんでした。

校長先生はそっとつぶやきました。「あなたのとった良い行いはグラウンドでは誰も見ていないけれど、校長先生は校長室からちゃんと見ていましたよ。そして、きっと神様もしっかりとあなたの良い行いを見ていましたよ。」

当時、小学校の校長をしていた私は、この話を読んで感動し、全校朝礼で紹介して、次のように児童に話をしました。

さて、みなさんはこのお話からどんなことを思いましたか。

ふだんの生活の中でも、誰も見ていないからと「ゴミや空き缶をポイ捨てする人」や、「トイレのスリッパを脱ぎ捨てる人」がいます。反対に誰も見ていなくても「教室や廊下にゴミが落ちていたらそっと拾ってゴミ箱に入れる人」や「トイレのスリッパが乱れていたらしちんとそろえてなおす人」がいます。

校長先生は、誰も見ていなくても、美しい心、正しい心で良い行いができる児童がこの〇〇小学校にたくさん増えたらいいなと思っています。そうしたら、みなさん一人ひとりが、自分や友だちを自慢でき、〇〇小学校を自慢できる学校にすることができるのではないかと思います。あなたのことを神様はきっと見ていますよ。

この6月11日からサッカーの祭典、ワールドカップが開催されます。みなさんも御存知のようにこのワールドカップでの日本人サポーターの行動が世界中から賞賛されています。それは、ゴミ袋を用意して試合後に会場のごみを集めてスタジアムを清掃している美しい姿に対しての賞賛です。

「試合には負けたけれど、美しい日本人の心は世界一」であると世界中の人々が日本人サポーターに感動したのです。（この「奉仕の心」は学校教育のとりわけ『特別活動』で培われていると確信しています）

「正しいことは美しい」日本人の美しい心を大切にしたいものですね。